

酒々井町郷土研究会々報

昭和58年10月1日
発行
酒々井町郷土研究会
総務部
第30号

石佛のこころ

相京晴次

郷土研究会の主要事業の一つとして、五十三年度から、毎月一回石佛調査をつづけてきて五年余となりました。

酒々井町の寺院、墓地、路傍など九十余ヶ所を一巡し、一応調査を終り、現在は補足調査、再調査の段階となりました。調査対象となった、丸彫り、半彫りの石佛の種類は二十四種類のうち、年代の古いもの、形姿のよいもの、珍らしいものなどは写真撮影をして、寸法、銘文など必要事項を記録して、他日詳細発表をする準備をすすめております。

今回はとりあえず、その一部を四ツ切写真とし、願に納めて



中央公民館の二階廊下壁面に展示して、一般町民の方々にも石佛に対する理解を深めて戴くことになりました。展示された数は、二十二枚であります。これを機会に写真解説を兼ねて、石佛について記してみましよう。

石佛は私達祖先が熱い信仰心によって造像されたもので、祖先達の祈りがこめられております。病氣、悩み、悲しみにつけて不幸から脱けだすために、真剣になつてお詣りをし、供養をして安心立命を願つてきたもので、石佛には祖先達の切実な歴史が秘められております。

現代は科学と医術の飛躍によつて、神も佛も疎遠されておりますが、私達は祖先の残した文化遺産である石佛をもう一度見直して、祖先の心を偲び、石佛を愛護したいものであります。次に石佛は何を語っているのか、どのような心で祖先達が石佛に對しておつたかを探してみましよう。

地蔵菩薩

史が秘められております。現代は科学と医術の飛躍によつて、神も佛も疎遠されておりますが、私達は祖先の残した文化遺産である石佛をもう一度見直して、祖先の心を偲び、石佛を愛護したいものであります。次に石佛は何を語っているのか、どのような心で祖先達が石佛に對しておつたかを探してみましよう。

如意輪觀音

地蔵菩薩について多かつたのが、如意輪觀音であります。酒々井、尾上、柏木地区には各三十餘以上があり、総数では二四四餘ありました。如意輪觀音は、六道の衆生の苦しみを取り去り、利益を与え、善薩として信仰されました。地蔵には三臂(手)四臂、六臂像などがありますが、当町に多く見られる像容は二臂で半伽藍像(立膝で右手を額にかけて物思ひをこめてる像)であります。

次頁につづく

江戸中期以降十九夜念佛、二十夜符の主尊として親しまれ、また其像佛としても造像されるようになりまし。 (日本石佛辞典)

注. 六道とは、一切の衆生が善悪の業因によって必然に廻るべき六種の迷界、即ち、地獄道、餓鬼道、畜生道、修羅道、人間道、至上道の六種をいう。

(広辞苑) 以下次号

酒々井町の「城と館」

木内達彦

「お城」というと、姫路城や大阪城のような天守閣があり、水をたにえたる堀、石垣などを思い浮かべると思いますが、酒々井町にも、「お城」があるのを御存知でしょうか。

「お城」といつても、天守はおろか石垣もない質素な城なのです。それでも、今、テレビで放映している「徳川家康」の物語りにまけない戦

国の歴史の舞台なのです。

戦国時代の酒々井

酒々井の城についてお話しする前に、戦国時代の酒々井町について少し説明させて下さい。

酒々井の位置する千葉県の部を昔は下総国といひ、鎌倉以後平氏の細筋を引く千葉一族が支配してました。室町時代中期、康正元年(一四五五)に千葉氏にお家騒動が起り、合戦の末に千葉家の家督は酒々井町に城を構えていた千葉胤胤が相続し、代々の居城であった猪鼻城(千葉市)を捨て、本佐倉城(本佐倉)に移りました。

これより以後、天正十八年(一五九〇)に小田原の北条氏に味方して太閤豊臣秀吉との戦いに負け滅びるまでの百余年酒々井の地は、戦国大名千葉氏の本拠地でありました。

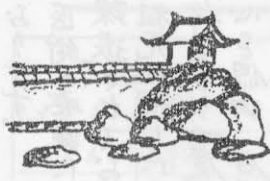
合戦に向う武将の姿、田楽や猿楽の囃子の音、又、遠国よりの姫の輿入れや市場でのがわめきなどが聞こえる土

地であったと思えます。

今に残る城址

現在に残っている城址は、本佐倉城の外に岩橋城(下岩橋字城山)、中岩橋城(墨字戸城)、右京館(酒々井)などありますが、この外に地名や古文書より大堀館(本佐倉字南大堀)、経胤寺(本佐倉)、栗飯原氏館(伊豆條)など、あと幾つかの所在が考えられます。鬼押し出し遺跡で見つかつた館址のように発掘して始めて知られた例もあるのです。

当町で最も良く残っている城址は、岩橋城と本佐倉城です。この両城の築城は戦国時代の幕あけ期でありましたから、当時の築城の形式がよく伝えられています。



見学会(六月)

小別当松風

昼蛙 幽学作りし 畦に草

幽学のつれ紙子や 館薄着

幽学の 領徳碑古り 若葉風

幽学の住みし館や 松葉散る

がんなんの

青実まらるり 仁王門

貝層に 蝶舞い遊ぶ

梅雨晴間

貝層に 光るもの見ゆ

青芒

葉桜に 雪洞一つ

ゆれてるし

石ベンチ 葉桜の影

辨当に

水戸黄門と酒々井

押尾克己

テレビで年輩者の方はお馴染の水戸黄門が酒々井にも来て居ると云うたら叱咤なさる方も多

いが、実際に来て居るのである。頃延宝二年(一六七二)甲寅の年、黄門四十才の時である。

その時の甲寅紀行(水戸彰考館所蔵)と云う旅日記を紹介したい。芝居のように、助さん格さんと云う近侍の名はないが、それに似た供を連れにこ

は間違ひなからうと思う。延宝二年四月二十六日の頃に次の通りある。

「辰の刻、押沙を出て、一葦に乗じて川を渡る。此の川、常陸と下総の堺なり。神崎の神社に詣す。……中略

此の社に大老樹あり。枝葉長大にして椽樺に似たり。云々と、なんじやもんじやの名付けは、此の時のことと思ふ。

「それより助崎を通り、舟台を過ぎ成田に到る。成田山神護新勝寺を詣る」とあり、次

が面白い。

「それより出て路の東に伊慈野山あり。(伊藤)此の山に鹿多し。堀田上野介正信の遊獵せし所なりと云う。大した古くもない昔には、酒々井あたりには、まだまだ鹿が沢山居に沢たなつかしいことである。

次も原文の通り引用する。

「既にして晡時に酒々井村に到る。松平和泉寺乗久領分なり。和泉寺、地藏院と云う一寺を営みて旅館となす。茶酒の什器等を備う。此の村は東照宮始めて取立て給う町なりと云う。未々までも繁昌すべし由を権臣に命じて、文状を下し賜う。文字には酒々井と書き、假名にはすすい

とあるなり。……中略 己に晩餉し畢りて、浜宿の勝胤寺へ行く。路傍に千葉の政城あり。親胤自殺の地なり。勝胤寺の山子を常盤山と云う。即ち勝胤が道号なりと云う。靈室の千葉石、大きき三四寸、灰黑色、上に白紋あり。弓張月と星との形に如く高く起さたり。……中略 寺の後に、千葉代々の石塔あり。文字利欠して知られず。

新会員紹介 (58.7~58.9)

| | 氏名 | 地区 |
|-----|--------|----|
| 398 | 島川 たき | |
| 399 | 島田 徳雄 | |
| 400 | 山口 松枝 | |
| 401 | 井上 ハルエ | |
| 402 | 飯田 正雄 | |
| 403 | 中村 トヨ | |
| 404 | 倉賀野 小み | |
| 405 | 堀井 タキ | |

帰路の林中に、将門の小祠あり。下略……」
これより清光寺に出て、家康の父、広忠公の幽霊塚を参詣し酒々井の旅館に憩い一泊して、翌二十七日に出立、辰の刻酒々井を出て八木村に到り、大蛇の森を見乍ら千葉方面に向つて居る。
以上で紹介を終るが、本当かしらと思いつつ、またさもありな人と、あれ、れ思ひ深べて結構楽しい。

文化協会に加盟

酒々井町中央公民館を利用する文化団体が中心となつて、今秋酒々井町文化協会が設立される運びとなりました。

つきましては当郷土研究会も、団体加盟することになりまして、郷土研究会員は即文化協会員となりま

三溪園外見学会計報告 58.9.20

| | | | |
|------|------------|--------------|----------|
| 収入 | 金に | 3500 × 125人 | 437,500- |
| 支出 | バス代 | 100,000 × 3台 | 300,000- |
| | 弁当代 | 540 × 125人 | 72,900- |
| | 乗4員4,700 | 6人 | 15,000- |
| | 氷川丸入船料 | 125人 | 56,250- |
| | 三溪園入園料 | 125人 | 20,000- |
| | 高速道路 | 3台分 | 22,200- |
| | 駐車料 | 24所 | 6,000- |
| | 計 | | 492,350- |
| 差引不足 | ¥ 54,850.- | 郷土研補助 | |

編集室により

★ 郷土研の事業として、昨年度から準備しておりました樹名札が漸く去る七月に会員有志の奉仕によって取り付けられました。中、小学校、役場、公民館、公園など四十ヶ所へ二百七十枚をつけました。これで主だった樹の名前はみな判りようになつたこととしよう。

★ ペンキ塗り、樹名しらべ、文字書、取り付け作業に奉仕下された方々に御礼申します。

★ 石佛調査は郷土研発足以来、毎月一回づつ実施してきましたが、その成果の一部を、類入り写真として、中央公民館二階廊下壁面に展示して、石佛に親しんで頂くことになりました。御覧になつて下さい。

★ 県外見学会横浜三溪園方面は申込多数のため大型観光バス三台を連ねて実施。役員さんは人員掌握に汗を流しましたが、無事見学を終りました。

★ 第四、四半期の見学会は、別記のように二回行うことになりました。振つてご参加下さい。

郷土研日誌

| | | | | | |
|-------|----------|-------------------|------|-----|------|
| 7月6日 | 樹名しらべ | 中、小学校・役場・公園の樹名しらべ | 参加者 | 5名 | |
| 7月9日 | 古文書学習会 | | 参加者 | 7名 | |
| 7月10日 | 石佛調査 | 伊藤・八木野方面 | 参加者 | 7名 | |
| 7月16日 | 史談会 | 下岩橋の民俗について | 参加者 | 16名 | |
| 7月17日 | 文化財愛護 | 上岩橋貝層・かんか口草刈り | 参加者 | 17名 | |
| 7月20日 | 樹名書き | 書道教室の婦人達の奉仕 | 参加者 | 17名 | |
| 7月21日 | 樹名板整理 | | 参加者 | 3名 | |
| 7月23日 | 郷土史講座 | 「歴代の佐倉城主」 | 参加者 | 63名 | |
| 7月24日 | 樹名札取り付け | 250枚 | 参加者 | 8名 | |
| 7月28日 | 樹名札取り付け | 20枚 | 参加者 | 4名 | |
| 7月30日 | 野草の会 | 佐倉岩名、飯田方面 | 参加者 | 24名 | |
| 8月20日 | 郷土史講座 | 「歴代の佐倉城主」 | 参加者 | 30名 | |
| 8月21日 | 石佛調査 | 墨・尾上・大崎方面 | 参加者 | 7名 | |
| 8月21日 | 石佛写真取り付け | 公民館2階廊下 | 参加者 | 7名 | |
| 8月30日 | 史談会 | | 参加者 | 5名 | |
| 9月10日 | 古文書学習会 | | 参加者 | 13名 | |
| 9月11日 | 石佛調査 | 瑞森院 | 参加者 | 5名 | |
| 9月17日 | 野草の会 | 原吾道・領仲・台方方面 | 参加者 | 18名 | |
| 9月18日 | 運営委員会 | | 参加者 | 15名 | |
| 9月20日 | 県外見学会 | 横浜三溪園・氷川丸・川崎大師 | バス3名 | 参加者 | 125名 |
| 9月27日 | 史談会 | | 参加者 | 9名 | |

第4・4半期 行事案内

| | 10 月 | 11 月 | 12 月 |
|------------|---|---|------------------------------------|
| 右文書 学習会 | 8日(土) 午後1時30分 中央公民館 | 12日(土) 午後1時30分 中央公民館 | 休 ミ |
| 石佛調査 | 23日(日) 午前9時 中央公民館集合 (雨天資料整理) | 13日(日) 午前9時 中央公民館集合 (雨天資料整理) | 11日(日) 午前9時 中央公民館集合 (雨天資料整理) |
| 野草の会 | 9日(日) 午前12時 京成酒々井駅集合 (船橋史跡探訪) | 5日(土) 午後1時 中川薬師集合 大鷲-柏木-下岩橋 神社と寺院めぐり | 休 ミ |
| 史談会 | 22日(土) 午後1時30分 酒々井町の民俗 中央公民館 | 休 ミ | 17日(土) 午後1時30分 酒々井町の民俗 中央公民館 |
| 県内 見学会 | 11月8日(火) A班 見学地 10日(木) B班 上総博物館— 忍者屋敷 — 鹿野山 25日(金) C班 各35名 会費 1,400円 役場出発 午前8時30分 (申込受付 10月7日午前9時以後 町史編さん室) | | |
| 一泊 見学会 | 12月6日(火) 見学地 7日(水) 1日目 役場— 大船観音 — 藤沢遊行寺 2日目 誕生寺— 清水観音 — 九十九里いし博物館 会費 13,000円 定員 80名 出発時間 { 午前7時40分 光ドライブイン , 7時45分 ショッピング , 7時50分 役場出発 (申込受付 10月7日午前9時以後 町史編さん室) | | |

見学会案内

●県内見学会

忍者屋敷

テレビ、ラジオ、漫画などで人気のある忍者の生活を、木更津郊外の山中に再現したものである。

鹿野山

虎駆動で新聞誌上を賑わした寺であるが、袖野寺表門は国の重要文化財であり、九十九谷の秋景色もよい。

◎一泊見学会

大船観音

国領大船観音のすぐ上に見える高さ25メートルの観音さま。

遊行寺

藤沢市にある時宗の総本山、一遍上人が開祖で、盆踊りの源流となった踊り念佛が有名である。

清水観音

坂東三十三観音のうち、三十三番札所いわし博物館

九十九里所、片貝に今春開館された、いわしの博物館